

上尾歴史散歩

248 上尾の古い地名をこう

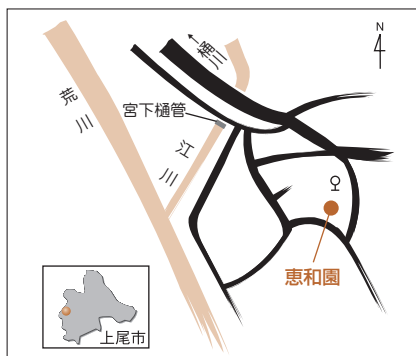
■宮下堤を歩く ～領家～

「ぐるっとくん」を恵和園で下車し、同園に沿った細い道を荒川に向かって南下する。恵和園周辺は標高十七メートル程であるが、荒川河岸は約十メートルなので標高差のある道となる。恵和園の敷地の南端を右折すると、もうそこは河川敷で、右折して百メートルも歩き、左折して百五十メートル程歩くと荒川の川べりに到着する。現在、荒川対岸に上尾市分の土地があるが、これは明治四十三(一九一〇)年大洪水後の河川改修により、流路が変わったためである。改修以前は領家地内から広大な河川敷が地続きであり、ことしの『広報あげお』5月号でも紹介したように肥沃な「やどろ」の供給地であった。この河川敷の小字は「宮下」である(『荒川—人文II』・『迅速測図』)。



宮下樋管から荒川方面を望む

ている荒川に流入している。荒川は対岸の現川島町寄りから蛇行して流下し、宮下樋管から七百メートルから一キロメートルも西方である。そのため領家村側に広大な河川敷があり、ここで「やどろ」の採掘も行われている(前掲書)。



領家村と旧樋詰村(桶川市)間に建築されているのが宮下堤で、明治初年の資料によると長さ九十九間(約百七十八メートル)、堤防の上面の馬踏九尺二・七メートル、堤敷(堤防底面)は十三十九間(約二十三・三十四メートル)である。現在の堤防からみると、大変小さく貧弱である。堤防の下面に水門があり、これが荒川の荒川への吐き出口である。長さ一間・幅二間で、これも小規模である。荒川の大宮台地沿いの堤防は、宮下堤のように溺れ谷の流出口に設けられている例が多い。これは荒川からの洪水時の逆流を防ぐ役割を持つが、現在に比していずれも小規模堤防である(『武蔵国群村誌』)。

わくわくクイズ

○に入る文字や数字を当ててください。

11月26日(土)から支援金付き○○○○商品券が発売されます。

(ヒントは3ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、11月21日(月)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

【おわびと訂正】 『広報あげお』10月号裏表紙の「わくわくクイズ」の記事中、ヒントに誤りがありました。おわびして訂正します。誤：ヒントは8ページ ⇒ 正：ヒントは2ページ

あて先：〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス：s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は12月号のこのコーナーで。前号の答えは「50」でした。ご応募ありがとうございました(応募者44人)。

市の人口・世帯
(平成23年10月1日現在)

22万7,368人
男/11万3,581人
女/11万3,787人
※前月より10人減。

9万3,007世帯

◆『広報あげお』は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス“ぐるっとくん”をご利用ください。